



代表幹事就任と盛夏のご挨拶

2025年7月15日

NPO 法人京滋マンション管理対策協議会

代表幹事 川内美智夫

蝉の声に包まれ、夏空が眩しく感じられる季節となりました。日頃より、私たちの NPO 法人京滋マンション管理対策協議会（略称・管対協）の活動・運営に対し、温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

管対協は、現在約 100 の管理組合、総戸数約 12,000 戸という大きな共同体として、発足以来、分譲マンションの居住者をはじめとする市民が、情報の交換、教育・研修を行うことによって自治能力の形成・向上を図ることを目的として運営されてきました。また分譲マンションの居住者をはじめとする市民が自治能力を高めることによって、マンションとその周辺地域におけるコミュニティの育成、住環境の保全・向上、福祉の増進を実現し、もって地域の街づくりに貢献することを目指す、という理念を掲げ、歩みを進めてまいりました。今、この原点を改めて振り返りつつ、皆さまと共に新たな未来を築く機会といたく存じます。

本年は、マンション管理をめぐる社会的課題がいくつも顕在化しております。

- **今回の区分所有法や管理適正化法等の改正**では、管理組合の権限や役割の明確化が進み、私たちの対応力が一層問われることとなります。
- **修繕工事業者の談合問題**は信頼の根幹を揺るがしかねず、公正・透明な契約・運営体制の確立が急務です。
- **高齢化する住民と老朽化するマンションへの対応**は、住まいと暮らしの質に直結する重要なテーマです。
- **外国人居住者の増加**も地域コミュニティの在り方を見直すきっかけとなり、文化的多様性を活かす工夫が求められています。
- **非耐震化マンションへの対応**も喫緊の課題です。特に南海トラフ地震等の災害リスクに備えた防災対策を強化する必要があります。
- そして、今後は**自治管理組合を目指す**という中長期的なビジョンも共に育んでまいりたいと考えております。
- 地域との繋がりでもあります自治会と管理組合との関係性など重要な問題が山積みです。

これらの課題に対し、皆さま一人ひとりが自らの暮らしとこの街の未来を見つめ、共に考え、歩んでいくことが何よりも力になります。こうした取り組みの根底には、「組合員一人ひとりが、暮らしの主演である」という視点があります。必要なことは、こうした声に耳を傾け、実行に移すこと。その橋渡し役を管対協は務めてまいります。

酷暑の折、どうぞご自愛いただきつつ、引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。末筆ながら、会員の皆様のご健康と穏やかな夏の日々を心よりお祈り申し上げます。